

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立秩父農工科学高等学校	Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	専門学科の趣旨や特性を踏まえて、目指す学校像が設定されている。学校の特色や強みを生かし、秩父地域に根ざすとともに、広く日本の産業と未来を支えていく志を表現した更に魅力あるものとなるよう工夫していただきたい。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	地域の期待、生徒の学力や進路の実態を踏まえ、重点目標が設定されている。学校の置かれた状況を把握した上で、中期的な視点から、更に目標の重点化を進めることが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校全体のシートに基づいて、分掌・学科・学年・教科のシートが作成されている。学校全体の重点目標、評価項目、方策と、分掌等の方策との連鎖がやや不十分であるので、誰が、何を、いつまでに取り組むのかを明確にし、学校自己評価システムが組織的に十分機能するよう更に工夫していただきたい。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	学校全体の目標に基づいて、分掌・学科・学年・教科が目標を設定し、様々な活動に取り組んでいる。方策がやや網羅的であるので、取組の成果を検証した上で、次年度の方策を高い成果が期待できるものに重点化すると良い。評価指標については、方策の達成状況が確認しにくいものがあるので、方策との連鎖を明確にして分かりやすいものを設定することが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が日本一の総合専門高校を目指して的確なリーダーシップを発揮し、「3Bスローガン (Break-through, Brush Up, Be Ambitious)」を掲げるなど、明確な学校経営の方針を示している。課題の解決に向けて教職員の共通理解を深め、学科の垣根を越え、更に組織的に取り組むことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。課題や次年度への改善策を明らかにするために必要なデータとなるよう各種アンケートの工夫を進め、更に学校関係者の意見やアンケートの結果等を分析して、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。
特記事項		